

JA日本株式ファンド

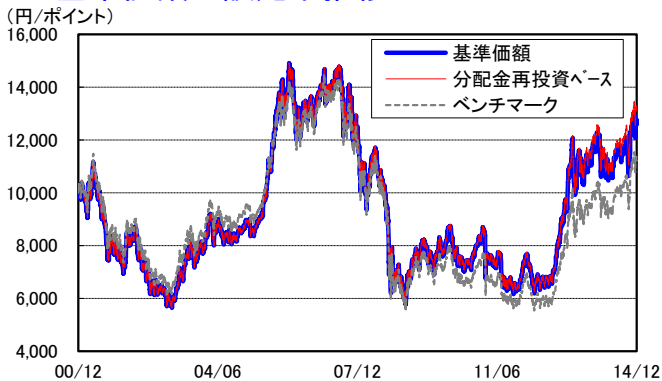
設定日:2000年12月22日 償還日:無期限 決算日:8月16日(休業日の場合は翌営業日)

追加型投信/国内/株式

●商品の特徴

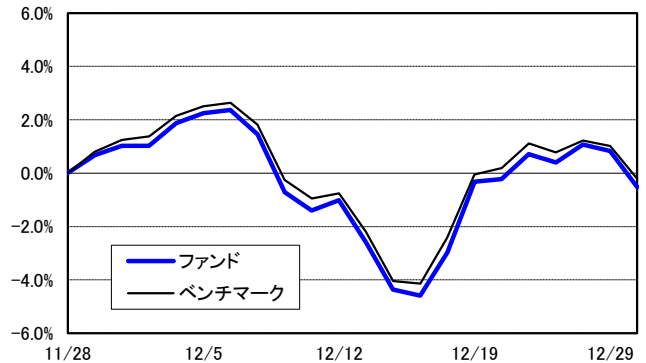
- 当ファンドは、JA日本株式マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄を中心に投資を行います。
- 運用にあたっては、ボトムアップアプローチによる個別銘柄選択により、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果を目指します。
- 株式の組入比率は原則として高位を保ちますので、基準価額は大きく変動することがあります。

●基準価額の設定来推移



- ※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
- ※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
- ※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当月のパフォーマンス推移



●設定来の運用実績

	ファンド騰落率 (分配金再投資) (1) (%)	TOPIX 騰落率 (2) (%)	差異 (1)-(2) (%)
過去1ヵ月	-0.52	-0.20	-0.32
過去3ヵ月	4.87	6.12	-1.26
過去6ヵ月	11.30	11.48	-0.18
過去1年	4.07	8.08	-4.01
過去3年	103.46	93.18	10.28
設定日	30.85	11.63	19.22

- ※1 ファンド騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
- ※2 ファンド騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●基準価額と純資産総額

年月日	基準価額 (円)	TOPIX (ポイント)	純資産総額 (百万円)	マザーファンド 純資産総額 (百万円)
2014/12/30	12,586	1,407.51	580	23,206
2000/12/22 (設定日)	10,000	1,260.88	4	8,749

- ※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
- ※2 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。

●直近6期の分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2014/08/18	180
2013/08/16	170
2012/08/16	0
2011/08/16	0
2010/08/16	0
2009/08/17	0
設定来合計	440

※ 1万口当たりの実績です。

●信託財産の構成

ファンド	比率(%)
マザーファンド 受益証券	100.5
国内株式	-
株式先物・オプション	-
短期資産等	-0.5
合計	100.0

- ※1 比率は純資産総額対比です。
- ※2 短期資産等には、コール・ローン、CP、CD、未収金、未払金等が含まれます。

マザーファンド	比率(%)
国内株式現物	99.7
東証1部	99.7
東証2部	-
ジャスダック	-
その他	-
国内株式先物	-
短期資産等	0.3
合計	100.0

- ※1 比率は純資産総額対比です。
- ※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

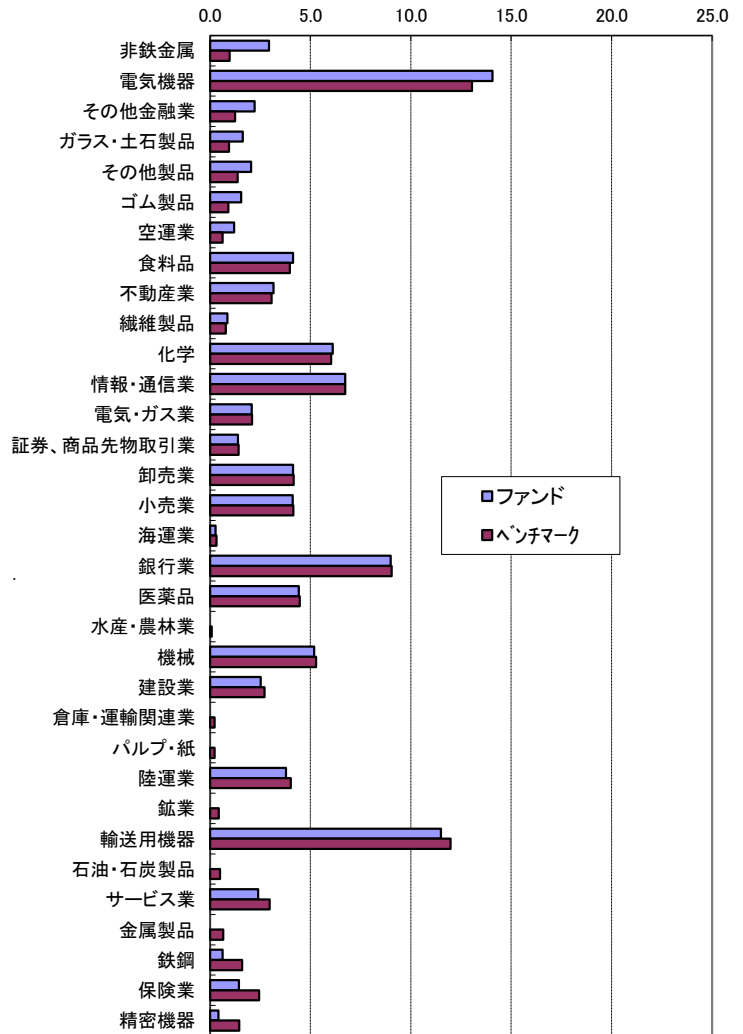
JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

<マザーファンドの運用状況>

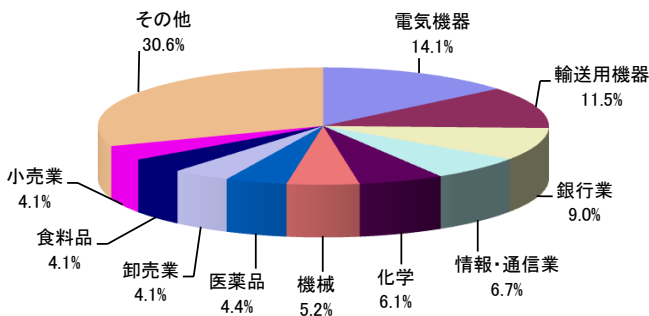
●業種別組入比率 (%)

業種	ファンド	ベンチマーク	差
非鉄金属	2.9	1.0	2.0
電気機器	14.1	13.0	1.0
その他金融業	2.2	1.2	1.0
ガラス・土石製品	1.6	0.9	0.7
その他製品	2.1	1.4	0.7
ゴム製品	1.5	0.9	0.6
空運業	1.2	0.6	0.6
食料品	4.1	4.0	0.2
不動産業	3.2	3.1	0.1
繊維製品	0.9	0.8	0.1
化学	6.1	6.0	0.1
情報・通信業	6.7	6.7	0.0
電気・ガス業	2.1	2.1	0.0
証券、商品先物取引業	1.4	1.4	0.0
卸売業	4.1	4.2	0.0
小売業	4.1	4.2	0.0
海運業	0.3	0.3	-0.1
銀行業	9.0	9.1	-0.1
医薬品	4.4	4.5	-0.1
水産・農林業	0.0	0.1	-0.1
機械	5.2	5.3	-0.1
建設業	2.5	2.7	-0.2
倉庫・運輸関連業	0.0	0.2	-0.2
パルプ・紙	0.0	0.2	-0.2
陸運業	3.8	4.0	-0.2
鉱業	0.0	0.4	-0.4
輸送用機器	11.5	12.0	-0.5
石油・石炭製品	0.0	0.5	-0.5
サービス業	2.4	3.0	-0.6
金属製品	0.0	0.7	-0.7
鉄鋼	0.6	1.6	-1.0
保険業	1.4	2.4	-1.0
精密機器	0.4	1.5	-1.0
合計	100.0	100.0	-

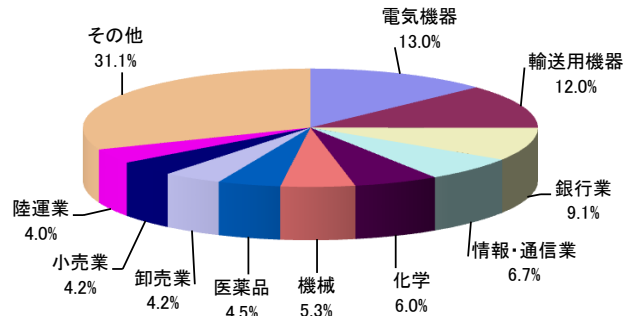


※1 業種分類は東証33分類に基づいています。
 ※2 比率は国内株式現物対比です。

●ファンドの組入業種上位(10業種)



●ベンチマークの組入業種上位(10業種)



JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

<マザーファンドの運用状況>

●組入上位15銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率(%)
1	トヨタ自動車	輸送用機器	7.9
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.6
3	ソフトバンク	情報・通信業	3.3
4	三菱商事	卸売業	3.3
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.8
6	日立製作所	電気機器	2.4
7	日本電産	電気機器	2.3
8	オリックス	その他金融業	2.2
9	東芝	電気機器	2.1
10	三井不動産	不動産業	1.9
11	アステラス製薬	医薬品	1.8
12	村田製作所	電気機器	1.6
13	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.5
14	ブリヂストン	ゴム製品	1.5
15	花王	化学	1.5

※ 比率は国内株式現物対比です。

組入銘柄総数: 92銘柄

●主な売買銘柄

※平均単価=金額÷株数

	買付				売付			
	銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
		(株)	(千円)			(株)	(千円)	
1	ブリヂストン	85,900	363,441	4,231	小松製作所	73,000	199,300	2,730
2	三菱商事	86,300	191,185	2,215	大塚ホールディングス	53,500	196,496	3,673
3	三菱重工業	254,000	176,972	697	三井物産	120,500	194,944	1,618
4	武田薬品工業	31,900	160,223	5,023	マツダ	46,400	138,544	2,986
5	SMC	4,000	129,104	32,276	日立建機	48,300	125,624	2,601
6	エービーシー・マート	21,500	126,531	5,885	富士重工業	24,800	107,045	4,316
7	オービック	28,800	110,126	3,824	日本たばこ産業	27,400	93,836	3,425
8	塩野義製薬	32,700	105,391	3,223	日野自動車	55,100	88,329	1,603
9	デンソー	15,800	92,040	5,825	いすゞ自動車	57,300	85,749	1,496
10	味の素	39,000	89,279	2,289	ユナイテッドアローズ	25,600	78,769	3,077
11	住友化学	122,000	56,629	464	JXホールディングス	157,500	70,066	445
12	ジェイ エフ イー ホールディングス	21,100	55,972	2,653	NTTドコモ	38,600	69,088	1,790
13	ソフトバンク	7,400	55,051	7,439	日本電信電話	8,900	55,924	6,284
14	住友金属鉱山	30,000	53,741	1,791	青山商事	21,600	55,794	2,583
15	日本通運	80,000	45,949	574	フジクラ	119,000	55,764	469

JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

<運用担当者のコメント>

●12月の市場動向と運用状況

(市場動向)

12月の日本株式市場は下落しました。初旬は、良好な米国雇用統計などを材料に米国株式市場が上昇したことや、為替市場の円安進行などを受けTOPIXは上昇しました。中旬は、原油価格下落の影響による原油産出国の財政への懸念が強まったことなどから、TOPIXは下落しました。下旬は、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明や、堅調な米国経済指標の内容などを受け米国株式市場が堅調に推移したことなどから、TOPIXは上昇に転じたものの、月末のTOPIXは前月比-0.20%の1,407.51ポイントとなりました。

業種では、原油市況下落に一服感が出た鉱業が値上がり率1位となり、以下、石油・石炭製品、保険業、サービス業、空運業と続きました。一方、携帯キャリアにおける新料金プランによる業績悪影響が懸念された情報・通信業が値下がり率1位となり、以下、その他金融業、食料品、不動産業、証券業と続きました。

(運用状況)

マザーファンドでは、月末の株式組入比率は99.7%と概ねフルインベストメントを継続しました。今月のパフォーマンスは、TOPIXの騰落率-0.20%に対して、当ファンドの騰落率は-0.52%となり、0.32%アンダーパフォームしました。

銘柄選択効果としては、サービス業の総合警備保障や建設業の大成建設、輸送用機器のトヨタ自動車をオーバーウェイトとしたことがプラスに寄与したものの、情報・通信業のソフトバンクや医薬品の中外製薬、銀行業の三菱UFJフィナンシャル・グループのオーバーウェイトがマイナスに寄与したことで、全体としてマイナスに寄与しました。

業種配分効果としては、空運業や非鉄金属のオーバーウェイトがプラスに寄与したものの、石油・石炭製品や保険業のアンダーウェイト、鉱業の非保有がマイナスに寄与し、全体としては若干のマイナス寄与となりました。

●今後の市場見通しと運用方針

(市場見通し)

日本に関しては、生産活動については鈍化傾向からやや持ち直しの兆しを示しております。国内需要については、消費増税後の市場心理の低下は一旦回復していますが、物価上昇に伴う実質賃金の伸び悩みもあり、消費回復への動きは鈍く、日本経済は総じて回復ペースが鈍化しています。物価については、日銀の追加緩和による円安進行が下支えとなるものの、原油安の継続から伸び率が鈍化すると考えられます。

米国に関しては、雇用は緩やかな回復軌道にあり、生産・投資関連指標は足元でやや拡大基調となっています。また、住宅関連指標の一旦の鈍化も足元では改善傾向にあり、米国経済は総じて緩やかな回復基調を継続しています。米連邦準備制度理事会(FRB)による追加資産買入策は解除されており、今年中ごろの利上げ開始を見込みますが、欧州・中国経済の鈍化や原油安も一因としてインフレ率は低水準に留まっていることから、経済指標の回復を睨みつつ慎重に利上げが検討されるものと想定します。

欧州に関しては、欧州経済の牽引役のドイツにおいても市場心理や生産活動・受注などに鈍化傾向が見られ、欧州経済の回復のペースは一段と鈍化しています。インフレ低下傾向が継続していることや、貸出の減少が続いていることから、今後欧州中央銀行(ECB)は緩和的な政策スタンスを継続し、追加の緩和措置も想定されます。

新興国に関しては、中国経済については、不動産価格が大きく調整の様相を示しており、景気下支えのため中国人民銀行は利下げを実施しました。消費・投資や生産活動等経済全般において成長スピードが緩やかに減速しつつあります。新興国全体では金融政策や物価動向については、国ごとに二極化しています。急速な原油価格低下に伴う資源国の景気減速や、ドル高から自国通貨安・物価上昇への対応に伴い利上げを実施した国の国内需要の減少については、留意が必要と考えられます。

今後も円安基調や原油価格の下落等が企業収益を下支えし、生産活動もやや持ち直しの兆しがみられることから、株価は緩やかな上昇を見込みますが、足元では日本国内の消費動向が弱含んでいることや、グローバル株式の下落、原油価格の急落やギリシャ情勢への懸念など先行きには不透明感もあり、株価は横ばい圏での推移を見込みます。

(運用方針)

以上を前提に、業種配分方針としては現段階では業種リスクを極力控えております。今後につきましては、各国金融政策の動向、グローバル景気の見通し、為替変動による企業収益影響などを慎重に見極め、業種配分方針を再構築していきます。業種リスクについては一定の範囲内に留め、推定トラッキングエラー(TE)は5%以内で対応する見込みです。



JA日本株式ファンド

追加型投信／国内／株式

○お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の基準価額に1.62% (税抜1.50%) 以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- 信託設定日 2000年12月22日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.296% (税抜1.20%)
- 決算日 毎年8月16日 (休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 原則として実質的な利子・配当収益に相当する収益を中心に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。分配金再投資 (累積投資) 専用ファンドですので、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の基準価額に0.30%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して4営業日目から支払いを行います。

- 税金
 - <個人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 - <法人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。

※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

○委託会社、その他の関係法人

- ◆委託会社: 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社 (金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第372号 一般社団法人 投資信託協会会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- ◆受託会社: 三菱UFJ信託銀行株式会社 (再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- ◆販売会社: 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の先までお問い合わせください。

- ◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
- ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp>
- フリーダイヤル: 0120-439-244 (受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申込、投資信託説明書 (交付目論見書) のご提供は



JA日本株式ファンド

追加型投信／国内／株式

○主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託（以下「当ファンド」という。）をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容をよくお読みください。

＜当ファンドに係るリスクについて＞

当ファンドは、主にわが国の株式を実質的な投資対象としますので、国内株式の下落による組入株式の価格の下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」です。「株価変動リスク」にかかる指標は、東証株価指数（TOPIX）です。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

＜当ファンドに係る手数料等について＞

◆申込手数料（1口当たり）・・・申込時にご負担いただくものです。
お申込日の基準価額に1.62%（税抜1.50%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。
※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金（解約）手数料・・・換金時にご負担いただくものではありません。

◆信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。
ファンドの純資産総額に年1.296%（税抜年1.20%）の率を乗じて得た額とします。

◆信託財産留保額（1口当り）・・・換金時にご負担いただくものです。
換金申込受付日の基準価額に0.30%の率を乗じて得た額とします。

◆監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。
ファンドの純資産総額に年0.00324%（税抜年0.003%）の率を乗じて得た額とします。

◆その他の費用（*）
有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借入れを行った場合の借入金利
※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「費用と税金」をご覧ください。

（*）「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

○留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金（貯金）保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- 東証株価指数（TOPIX）に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。